

巻頭言

いつもの朝と、新しい明日を。

(一社)九州経済連合会 監事 酒見 俊夫〔西部ガスホールディングス(株) 会長〕 … 1

九経連活動報告

デジタルトランスフォーメーション (DX) による九州の発展を目指して

～「九州デジタル経営塾」開講～ …………… 2

中長期的視野に立ち、オール九州で航空宇宙産業の発展に取り組む！

～2021年度九航協定時総会開催～

九州航空宇宙開発推進協議会 … 3

日誌(7月)

…………… 4

講演要旨

コロナ禍による世界・日本経済と激化するエネルギー資源獲得競争

エコノミスト BRICs経済研究所 代表 門倉 貴史 … 5

Mari Yoder の Impressions of Foreigners Working in Kyushu

Interview with Former Apple Engineer Now Owner of Weber Workshops

and Kamakiri Coffee Shops …………… 6

会員紹介

株式会社ジェネック …………… 8

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構) …………… 9

日総工産株式会社 …………… 10

沖縄観光通信

～ミス沖縄がおススメする沖縄観光情報～ 沖縄美ら海水族館 …………… 11

九州観光推進機構ニュース

リモートFAMツアーの開催(奄美・八女)

旅行者に人気のモデルコース

～③ 勝負運、恋愛運、金運を手に入れる！福岡～佐賀★開運ドライブ～ …………… 12

九州・山口地域動向

…………… 14

表紙説明・スケジュール(9月)・新入会員企業(7月)

…………… 17

いつもの朝と、新しい明日を。



(一社)九州経済連合会 監事

酒見 俊夫

〔西部ガスホールディングス(株) 会長〕

私ども西部ガスグループは1930年の創業以来、生活に欠かすことのできないライフライン事業者としてガスを絶やすことなくお届けしてまいりました。その間、1982年の長崎水害や2016年の熊本地震などの大災害を経験してきましたが、そのたびに当社グループの最大の使命である「安定供給」と「保安の確保」を果たすためグループが一体となり、さらなる災害対策の強化に取り組んでまいりました。

昨年12月には、当社グループの天然ガス供給拠点である北九州市の「ひびきLNG基地」から福岡地区までの2本目の高圧パイプライン「九州北部幹線」の供用開始による複線化で、災害や事故に対する都市ガス供給のセキュリティが大きく向上しました。

コロナ禍においても、安定供給と保安の確保という当社グループの最大の使命を果たすため、感染対策を万全にとり、引き続き安定供給に最大限努めてまいります。

さて、当社グループがお届けする都市ガスの原料となる天然ガスは、同じ化石燃料である石油や石炭と比べてCO₂の排出量が少ないクリーンなエネルギーです。当社グループでは「ひびきLNG基地」を基点として、北部九州を中心に天然ガスをお届けしてまいりました。一方で、大気汚染が問題となっている隣国の中国においてはクリーンエネルギーであ

る天然ガスの需要が増加していることから、需要地である中国に近い「ひびきLNG基地」の立地条件を生かして昨年よりLNGの輸出を開始し、アジア地域におけるLNG取引の拠点化を目指しています。

また、「ひびきLNG基地」の隣接地においては、九州電力さまと共同でLNGを燃料とした火力発電所の開発に向けた事業化検討を行っています。本発電所は、発電方式にCO₂排出量が少ない最新鋭のコンバインドサイクルを採用し、将来的にはカーボンフリー燃料(アンモニア・水素)も活用することで、九州地域における低・脱炭素社会の実現と電力の安定供給にも貢献できると考えております。

さらに、当社グループではガスエネルギー事業を中核としながら、不動産事業や国際エネルギー事業、食関連事業などの事業を展開しており、エネルギー分野だけに限らずさまざまな分野において九州経済の発展に貢献していきたくと考えております。

表題である「いつもの朝と、新しい明日を。」は、当社グループが掲げているコーポレートメッセージです。このメッセージには、これまで築き上げてきた「信頼」を守ること、そして、よりよい未来のために「挑戦」していくことの二つの思いを込めております。コロナ禍など私たちが現在直面する困難は、九州地域経済がさらなる発展を遂げるための試練です。この試練を乗り越えるために、倉富新会長とともに皆でスクラムを組み、九州・山口の「新しい明日」を迎えるため、最初の一歩を踏み出していきましょう。

今年は、九経連の設立から60周年という節目の年です。「九州はひとつ」という理念の下、九州経済の発展に貢献できるよう、九州地域の活性化と結束力強化にまい進し、九経連の一員として尽力してまいります。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

デジタルトランスフォーメーション(DX)による九州の発展を目指して ～「九州デジタル経営塾」開講～

と き 7月12日(月)

ところ 福岡市・電気ビルみらいホール(Web併催)

出席者 440名

主催

(一財)九州オープンイノベーションセンター
(一社)九州経済連合会、九州商工会議所連合会
九州経済同友会、九州経営者協会
(公財)九州経済調査協会

企業経営のデジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組む経営層を対象とした「九州デジタル経営塾」の開講式とキックオフセミナーを福岡で開催した。

1. 九州デジタル経営塾の概要

データ活用をはじめ、デジタル技術やデジタル基盤を活用した事業の変革、組織の変革、発想の変革、価値の変革(顧客価値と自社の価値)を目指すDXについて、九州の経営層に理解を深めてもらうとともに、経営層同士のネットワーク構築を目的に、「九州デジタル経営塾」(塾長：津田純嗣(株)安川電機会長)を開講した。

九州デジタル経営塾は、九州各県で1泊2日の合宿形式で行い、九州に本社、事業所、工場等を有する中小・中堅企業・団体等の経営層および主催6団体の会員企業等を対象に、1会場30社(経営層30名)限定で開催する。

カリキュラムは、DX先進企業の先行事例に学ぶ講演やワークショップによるグループ討議等を予定しており、それらを通じ、自社でのデジタルを活用した事業の再構築や新規事業の開拓を実現するための組織変革、意識改革を引き出す知見・見識を深めることにより、DXを推進する一助になると考えている。

2. 開講式・キックオフセミナー

開講にあたり、主催者である九経連の倉富純男会長と(一財)九州オープンイノベーションセンターの瓜生道明会長が挨拶し、「DXは最重要課題として取り組むべきという認識の下、DXを経営に活かすための知見や先進事例を経営者が学び、経営者同士がコミュニケーションできる場となることを期待している」と述べた。

続いて、九州経済産業局の米田健三局長(当

時)による来賓挨拶の後、津田純嗣塾長より「デジタル経営のすゝめ」と題し、自社の事例を基にDXへの取り組みについての講話を行った。

デジタル経営講演では、(株)グッデイの柳瀬隆志社長より「グッデイのデジタル経営への挑戦～データを駆使したUX(ユーザーエクスペリエンス)の達成～」と題し、データ分析を糸口に店舗のDXを推進し、顧客のUX向上につなげる方法等、具体的な事例やツールについてお話しいただいた。次に、(株)グループノーツの佐々木久美子会長より「知っておくべきテクノロジーのインパクト」と題し、テクノロジーの進化によって変化した価値観等についてご講演いただいた。

講演終了後には「名刺交換会」を行い、登壇者を交えて参加者同士の交流を図った。



3. 今後の予定

福岡でのキックオフセミナーを皮切りに、今年度は大分(11月)、鹿児島(12月)、宮崎(1月)で、来年度は長崎、熊本、佐賀、北九州での開催を予定しており、オール九州で経営のデジタル化推進の一翼を担っていく。

【産業振興部 伊藤】

中長期的視野に立ち、オール九州で航空宇宙産業の発展に取り組む！ ～2021年度九航協定時総会開催～

と き 7月21日(水)

ところ 福岡市・九経連会議室(Web併催)

出席者 62名(会議室32名、Web30名)

九州航空宇宙開発推進協議会

1. 倉富会長挨拶(要旨)

昨年より続く新型コロナウイルス感染症の影響で、特に航空業界においては我慢の日々が続いているが、ポストコロナでのインバウンド・航空需要の復活もそう遠い話ではない。厳しい試練の続く今だからこそ、新技術への挑戦や、デジタル化など、しっかりと準備を進めていきたい。

宇宙分野では、今年度、内之浦宇宙空間観測所の民間利用促進などを求める要望書を文部科学省・JAXA等に提出し、大臣・理事長から前向きな評価をいただくなど、着実に成果が表れている。これらの成果が上がっている要因は、九州が持っているポテンシャルの高さと、何よりも九州一体となった、「まとまりの良さ」だと認識している。

航空宇宙産業は次世代の有望な産業として、組織的かつ積極的に、その振興に取り組む必要があるという認識の下、私自身もしっかり汗をかき、皆様の期待に応えてまいりたい。麻生前会長の方針を踏襲しながら、九州を元気にしていきたい。



倉富純男会長

2. 議事

■第1号議案 2020年度事業報告

■第2号議案 2020年度決算報告

航空分野では、「九航協エアロスペース・ネットワーク(QAN)」により、商談会出展等の活動を行った。小型電動航空機研究会活動ではドローンのニーズ調査、電動パワーユニットによるプロペラ推力試験などを行ったほか、同研究会幹事会にて、電動パワーユニットによるジャンプ飛行の準備状況、仕様承認取得の進捗状況を確認するとともに、小型電動航空機研究開発ロードマップを策定した。

宇宙分野では、既存射場活用研究会を立ち

上げ、4回の研究会を開催し、内之浦宇宙空間観測所における「ロケットの打上げ促進」「民間利用の促進」「次世代人材の育成」「本要望の実現に向けた協議への国の参画」を要望項目として協議・立案した。

毎年3月に開催している種子島ロケットコンテストは、感染症拡大防止のため初のオンライン開催とし、講演会ならびにプレゼンコンテスト、ワークショップを実施した。

■第3号議案 2021年度事業計画(案)

■第4号議案 2021年度収支予算(案)

2022年4月九航協設立30周年を契機に、九航協の活動総括と、今後取り組むべき事業ならびに体制について検討し、次の10年に向けてのビジョン(長期計画)を策定する第3次企画委員会を設置することとし、委員会の設置趣旨、活動期間、活動内容および委員名簿等について説明が行われた。

他の各事業についても、昨年度に引き続き活発な活動を行う。

■第5号議案 2021年度役員選任(案)

今年度は非改選期のため、異動等の変更を除き、留任いただく。

3. 特別講演会

総会終了後、(株)QPS研究所の大西俊輔社長より「九州の技術を宇宙ビジネスへ～地域企業と行う世界トップレベルの小型レーダー衛星開発の今と未来～」と題してご講演いただいた。

講演では、同社が開発・打上げに成功した小型SAR衛星の活用により目指す準リアルタイムデータサービスについて紹介されたほか、



大西俊輔氏

プロジェクトの成功に不可欠である豊富な技術を有する地域企業との連携の重要性についてお話しいただいた。

【産業振興部 松田】

1日(木) [東京都・自由民主党本部]

「国土強靱化税制」の整備・創設を支援する議員懇話会
出席者：74名

北海道から九州まで全国の8経済連合会では、国土強靱化税制の創設に向けた要望書を取りまとめ、公表。要望書には、3～4月に会員企業などを対象に実施したアンケートを踏まえ、対応の緊急性、今後の投資分野としての重要性等の観点から、優先度の高い4つの項目を提示した。

2018年に発足し今回で5回目の開催となる議員懇話会では、内閣官房国土強靱化推進室や国土交通省など5府省からも出席の下、「旧耐震基準、情報通信施設等の建物の耐震診断・耐震化」等について優遇税制の実現を求めた。さらに、懇話会終了後、首相官邸、財務省へも要望活動を実施した。

6日(火) [福岡県宮若市・トヨタ自動車九州(株)]

産業振興・デジタル推進委員会産業振興部会 先進工場見学会
出席者：16名

トヨタ自動車九州(株)様のご厚意により、コロナ禍での延期を経て実現した。本見学会の目的は、当部会の主要事業である生産性・付加価値向上に資する先進事例を学習し、今後活かすことにある。今年30周年を迎える同社工場は世界80カ国へ輸出するレクサスの生産拠点であり、世界最高品質へのこだわり、ものづくりによる人づくり、革新技術と匠の技術の融合などに注力するとともに、先進的環境モデル工場、豊かな地域づくりに貢献するという未来志向の取り組みを行っている。今回の見学で得た知見をもとに、中堅・中小企業の生産性・付加価値向上のための活動を強化するとともに、11月末に予定している生産性向上Webセミナーに反映していく。

6日(火) [福岡市・九経連会議室(Web併催)]

行財政委員会第1回企画部会
出席者：13名

まず、事務局より「九州将来ビジョン2030」の概要および当委員会関連テーマの説明を行った。次に、同ビジョンが掲げる「自立型広域連携アイランド」を実現するための「自立型広域経済圏モデル検討WG」の立ち上げについて、石丸修平部会長(九州大学客員准教授)および事務局より説明し、意見交換を行った。委員からは、道州制のような「制度」よりも、まず「どんな社会を実現したいか」という将来像を描いた上で、それを実現するための制度を検討する進め方に合意をいただき、WG立ち上げが承認された。

7日(水) [福岡市・九経連会議室]

第1回九州経済を考える懇談会
出席者：6名

九州の経済団体トップで構成する本懇談会の2021年度第1回会合を開催。倉富純男会長による挨拶、事務局からの経緯説明に続き、デロイトトーマツの磯保克平ボード副議長より「地域包括DX推進拠点(国への提言内容)」を報告いただいた。

各団体トップの交代、また懇談会での討議を「九州地域戦略会議への議題提起を前提」にしたことを受け、意見交換を実施。今後の討議テーマを「DXの深掘り」と「アフターコロナの観光」とし、九州一体で取り組むべき課題を引き続き検討していくことを確認した。

9日(金) [福岡市・九経連会議室]

交通委員会第1回企画部会
出席者：19名

清水信彦部会長(西日本鉄道(株)専務執行役員)による開会挨拶の後、(株)MK総合研究所の幕亮二代表取締役所長より「アフターコロナのイン・アウトバウンド促進に向けた空港連携」と題してご講演いただいた。コロナ収束を見据えたオール九州での路線誘致や振興を促進する上で、各県の空港連携のあり方や課題等についてお話しいただいた。

議事では、今年度の「九州・山口における交通基盤整備に関

する要望」の説明と、事業計画の内容および進捗状況の報告を行った。

12日(月) [福岡市・電気ビルみらいホール(Web併催)]

「九州デジタル経営塾」開講

※本誌2ページ「活動報告」に詳細を掲載

15日(木) [Web開催]

第1回K.P.C.ウェビナー

出席者：138名

コロナ禍の中、九州とベトナム間の経済交流を進めていくことに加え、昨年11月にプレオープンした九州プロモーションセンター(KPC)の認知度向上を意識したウェビナーを開催した(今年度は3回を予定)。第1回目のテーマは「ベトナムへの進出」。在福岡ベトナム総領事館ヴァー・ビン総領事による挨拶後、在ベトナム日本国大使館、日本貿易振興機構(JETRO)ハノイ事務所等より、ベトナムの政治情勢や、同国進出時の予備知識等についてご講演いただいた。その後、既に進出済の九州に縁のある企業に登壇いただき、リアルな体験を紹介するパネルディスカッションを行った。事前に多くの質問が寄せられる等、関心の高さがうかがえた。第2回開催は11月を予定。

15日(木) [佐賀県三養基郡基山町・基山町役場]

第3回きやま地方創生モビリティ研究会

出席者：12名

地元意見のヒアリング・分析を重ねて完成した新たなモビリティ事業プランを発表。事業内容は、町内の主要施設を網羅するデマンドタクシーの導入、地元農産物を基山PAへ輸送する貨客混載事業、既存の高齢者向け健康増進事業とモビリティ事業の掛け合わせ等であり、複数の事業と一体的に運営するスキームを提案。本研究会から基山町へ「地域の移動特性に応じた公共交通体系」「経済的に持続可能な公共交通体系」「高齢者の健康増進に資する公共交通体系」の3つの交通体系構築を提言した。本提言を基に、基山町が主体となって社会実装も見据えた議論や活動を行っていく。

21日(水) [福岡市・九経連会議室(Web併催)]

九州航空宇宙開発推進協議会2021年度定時総会

※本誌3ページ「活動報告」に詳細を掲載

29日(木) [Web開催]

2021年度先導的ICT人材育成事業キックオフ会議

出席者：51名

15日目の取り組みとなる今年度は、21名の学生が実践インターンシップに参加。キックオフ会議は、新型コロナウイルスの状況に鑑み、オンラインにて開催し、参加学生のほか、学校関係者、企業担当者の方々に多数参加いただいた。

本会伊藤宏充ICT推進担当部長の挨拶の後、事務局より今年度の参加者へ激励のメッセージを送った。その後、学生が一人ずつ参加にあたっての抱負を語った。今後、未来の日本を担うICT人材となるべく、1カ月程度の実践インターンシップに、一部ではオンラインも活用しながら参加する。

30日(金) [福岡市・九州大学]

J C九州地区協議会との連携協定締結式・九州縦横断FCVキャラバン出発式
出席者：約30名

本会は、日本青年会議所九州地区協議会と水素エネルギーの活用推進に関する連携協定を締結した。今後、九州全県をFCV(燃料電池車)で走行する九州縦横断FCVキャラバンの共同実施や展示会への水素関連ブースの共同出展などを行う。本会では「脱炭素」を成長の機会ならびにビジネスチャンスと捉え、九州の産学官の総力を結集して、カーボンニュートラルを先導するエネルギー環境の整備を図っていくこととしている。

※次号(10月号)にて詳細を掲載予定

コロナ禍による世界・日本経済と 激化するエネルギー資源獲得競争

(2021年6月16日(水)九州エネルギー問題懇話会エネルギー講演会での講演)



エコノミスト
BRICS経済研究所 代表

門倉 貴史

1. 新型コロナによる経済影響

新型コロナウイルス感染拡大により、2020年の経済成長率は、日本はマイナス4.8%、世界全体でマイナス3.3%。世界全体でのマイナス成長は1929年の世界大恐慌以来であり、新型コロナの影響の大きさを表している。

2021年以降の世界経済回復については、ワクチンが普及すればV字回復するとの楽観的な見方は影を潜め、よくてもU字型、場合によっては長い年月をかけて回復するレ(ダッシュ)型、低迷が長期化するL字型という悲観的な見方が増えている。ワクチンの普及スピードの遅れにより、世界全体が集団免疫を獲得して経済が正常化してくるのは2022年の後半以降になるだろう。また、新たな社会生活様式により消費も変化しているため、経済が元の水準に戻るには長い年月がかかる。

日本では雇用・所得環境が急激に悪化しており、政府は雇用対策を中心に巨額の財政支援を行わざるを得ない。2020年度は事業規模で合計298.6兆円の補正予算を組んだが、政府の財政支出は80兆円にとどまる。2021年度当初予算も過去最大の106.6兆円だが、急激に落ち込んだGDPを下支えするにはまだ力不足で、補正予算が必要になるだろう。

2. エネルギー資源の価格動向

原油、天然ガス、石炭とも2020年はコロナによる経済活動の停滞で需要が減少し価格が下落したが、ワクチン接種が進んだ米国・英国などの経済が正常化に向かいつつあることを受け、年末頃から持ち直している。中長期的には、原油は中国・インドなど新興国の需要増により価格も上昇する見通し。天然ガスはCO₂排出量が比較的少ないことから需要が増えており価格も上がる可能性が高い。石炭は消費量が頭打ちになりつつあり、大きな価格上昇はないだろう。

世界的に脱化石燃料の動きが進む中、シェール革命で世界の産油国となった米国はバイデン政権で政策を180度転換。2050年カーボンニュートラルを掲げ、2035年に電力部門のCO₂排出ゼロを目指し、再生可能エネルギーや原子力の比率を引き上げていく見通し。中国は原子力比率を高める戦略で、稼働中のもので世界3位、建設計画を含めると2030年には発電量で世界1位になる可能性がある。再エネ推進で先行するドイツでは、風力発電比率のさらなる引き上げが進められている。

3. エネルギーでもリスク分散を

日本では急速な高齢化による社会保障費の増大にコロナによる巨額の財政支出が加わり、国の財政のさらなる悪化が予想される。家計にとっては老後の生活費の確保が課題で、将来的な年金の減額や医療・介護の自己負担引き上げに備え、資産形成が重要になる。

退職までの資産形成、年金以外の安定収入確保には、投資による資産運用が最適だ。日本は今後インフレに転換する可能性が高いことを念頭に、株式、現金・預金、不動産を柱に、資産を幅広い金融・投資商品に分散させ、中長期で運用することが重要になる。

分散投資の考え方はエネルギー政策にも当てはまる。日本の主なエネルギー源は、石油・石炭・LNG、再エネ、原子力。現状で約75%を占める化石燃料には、供給の不安定性、CO₂排出、中長期的な価格上昇という問題がある。再エネは急増しているが、経済面では賦課金による電気料金上昇などの課題がある。各エネルギー源の特性を踏まえ中長期的な視点でうまく組み合わせることが必要だ。

日本も2050年カーボンニュートラルを掲げ、グリーン成長戦略のもと技術革新や投資を促進する。最適なエネルギーミックスの実現、脱炭素と経済成長の両立を期待したい。



Impressions of Foreigners Working in Kyushu

Interview with Former Apple Engineer Now Owner of Weber Workshops and Kamakiri Coffee Shops

Mr. Douglas Weber, interviewed by Mari Yoder
Itoshima, Fukuoka, June 7th 2021.



Douglas Weber is an American engineer and the founder of three businesses, **Weber Workshops**, **Kamakiri Workshops**, and **Kamakiri**

Coffee. Though a native of California, he considers Itoshima his home, where he lives with his wife and two (soon to be three) young children. He is fluent in Japanese, having started learning it as a child growing up in a largely Asian neighborhood in California.

While an undergrad at Stanford, he came to Japan for a year to study at Kyoto University. Then, turning down an initial job offer from Apple, a year later he received a scholarship from the Japanese Ministry of Education (MEXT) to study at a university of his choice in Japan, and went to Kyushu University for another year to study ceramics. After receiving a second offer from Apple however, he accepted. He started there when it was a relatively small company, and after 14 years of helping it grow into one of the top companies in the world, he felt the timing was right to strike out on his own. He started his own company, pursuing his dream of designing what are quickly becoming known as the best coffee grinders in the world.

Weber Workshops' biggest customer base is in the USA, although the fastest growing area is the Middle East. In June 2021, he launched a crowdfunding campaign for his latest creation, the Key Coffee Grinder which was fully funded in 5 minutes, and in one month overshot its goal of \$20,000 by 17,795%, raising over \$3,500,000 in pre-orders. Clearly, he's

doing something right, and has an extremely loyal following in the coffee world. You can see his products at work and try the coffee at one of his Kamakiri Coffee shops in Yakuin or Hirao in Fukuoka City. We visited Mr. Weber at his office in Itoshima in June, just before the launch.

Mari Yoder (MY):
You were designing iPods and iPhones so why did you switch to coffee?

Douglas Weber (DW): I've always loved coffee, even

in the very beginning, when I started working on things like iPods and iPhones and things, that was about the same time I got into coffee. And it was also when third wave coffee was just starting to bloom in San Francisco. So, I'd buy commercial machines for home use to learn how to be better at making coffee. And every time I bought something, I'd look at it, take it apart and think well, what is this? I could do so much better than this. But I was in this position where I was the lead engineer on the number one selling thing in the world for that year. I was super lucky. I was in the right place at the right time. I recognized that. So I thought, okay, I can do coffee stuff later. The great thing about coffee that I always knew is that it's not going to change. The iPod is going to sell for five years, a phone for a certain amount of time, but coffee will always be there. But at the same time, I saw an increase in engagement for and proliferation of really good coffee products. I joined Apple when it was at rock bottom, and I left when it was the number one company in the world. Apple had really grown up into a big corporation. It no longer



had the small scrappy startup feel. It was much more fun when it was small, because for example you get to do all the design work for an iPod. And then by the end, employee responsibility grew more and more focused, meaning each engineer had less individual oversight and responsibility. I was in management and doing other stuff, and I felt it was now or never. So, I stopped in 2014 and started doing what I wanted to do and never looked back.

MY: Why did you choose to start your business in Fukuoka?

DW: Originally, as a student, I chose to come to Fukuoka because I wanted to make ceramics. I just really liked the vibe of Itoshima in particular, and the proximity it had to the city. I liked the mountains, rivers, and ocean. Then, when I was working at Apple, I would take vacations and come and visit my friend who gave me his studio to work in. Even though I didn't have any plans yet to come and live, I was able to buy a large, beautiful piece of land in Itoshima. So, when it came time to leave Apple and start my own company, I knew that I was going to get into manufacturing and designing pretty complicated stuff. I thought about doing it in Japan. I have many connections in Japan in Japanese manufacturing, but none of them know how to deliver at the right price or speed, and what I knew could be done competitively. Japan is not a great manufacturing place for small mid-level companies, unless it's completely in-house. So, I knew that I wanted to make the machines in Taiwan. Because the airport is so close, if I leave here in the morning, I can be in Tokyo or at the factory in Taipei by noon. But every day, focusing on products and designing and running the company, I can live in an environment like this and have access to a city like Fukuoka. That's pretty ideal. The cost of living is low and it's just really nice. There are other nice places in the world that eventually I might consider, but right now, since I'm focused on my business, trying to make things happen in Taiwan, this is the

place I want to be.

MY: As a successful small business owner marketing to overseas customers, what advice can you give to small businesses in Kyushu who would like to do the same?

DW: If you're selling something, have a really strong online presence and do something in a world-class niche. Project yourself really well in English. That's super important if you want to sell something online. You have to make them believe it exists and it's worth it. Luckily everybody has good tools for doing that, you can take amazing photos just with your phone. You need to have a lot of exposure. Just doing that really well is key. But obviously the product has to be at a certain level as well. It's not like you can just sell anything. For me, it's not about how you sell, it's what you sell. That's what I focus on.

(要旨)

アメリカ・カリフォルニア州出身で福岡県糸島市在住のエンジニア、ダグラス・ウェバーさんは、コーヒー機器開発の「ウェバーワークショップ」、iPhone用アクセサリや革製品などの「カマキリワークショップ」、自身が開発したマシンでコーヒーを提供する「カマキリコーヒー」の3つのビジネスを立ち上げた。

幼少期からアジア系が多く暮らす地域で育った彼は日本語が堪能で、スタンフォード大学在学中に京都大学に、さらにセラミックスを学ぶために九州大学に留学。その後アップル社でiPodやiPhoneなどのデザインエンジニアとして活躍し、2014年に退社。元々興味があったコーヒーマシン開発の夢を実現するために来日。留学時から陶芸の関係で縁があった糸島市に拠点を構える。彼のコーヒーマシンの顧客の大多数はアメリカで、中東地域でも急増している。

糸島の自然豊かな雰囲気と生活費の安さ、福岡のような大都市や空港への近さが気に入っている。糸島で設計して台湾で製造するビジネスを展開する上で、自宅を朝出発しても正午までに東京や台北に到着できるアクセスの良さは非常に理想的だと語る。

九州の中小企業が海外展開する上で重要なのは「世界クラスのニッチ分野においてウェブ上で強力な存在感を示し、その商品にどれだけ価値があるかを英語で示すこと。どのように売るかではなく、何を売るか重要だ」と指摘する。

会社紹介

当社は、前身の「北九州運輸株式会社」設立以来半世紀を超えて、港湾関連事業、物流事業、内航海運事業を主軸とし、北部九州を地盤として広く海・陸・空にまたがる物流事業を展開してきました。2002(平成14)年には、社名を現社名の「株式会社ジェネック」に改め、人々の生活を支えるべく、単にモノの輸送だけではなく、商流、情報、文化などをも含めたグローバルな視野とスケールで、お客様にご満足いただける高品質なサービスを提供しております。「現場・職場第一主義」を貫き「安全第一」と「顧客志向」の徹底に努め、アジアのゲートウェイである北部九州の立地を生かした最適物流の構築に尽力しています。

当社はお客様の痒いところに手が届くようなきめ細やかなサービスからメーカー様への部品供給業務、そして国家事業(人工衛星輸送やバイオ燃料発電再生燃料供給輸送、風力発電機材輸送等々)までありとあらゆる物流の実績・経験があります。また、九州の食材を世界へ販売し広めていく活動も現在チャレンジしているところです。九州の地の利を生かして九州から日本を、そして全世界を活性化させていきたいと考えて活動しています。

これからも私たちは、「CHANGE(変革)・CHALLENGE(挑戦)・CREATE(創造)」の3Cに「COMMUNICATION(話をしよう)」を加えた4Cをモットーに、海・陸・空にまたがる国際物流企業グループとして、お客様にご安心いただける高品質なサービスを提供するとともに、企業活動を通じて豊かな社会づくりに貢献してまいります。

会社名	株式会社ジェネック
創業	1949年3月
代表者	代表取締役社長 伊東 純一
事業内容	1. 港湾運送事業 2. 内航海運業 3. 外航海運業 4. 倉庫業 5. 通関業 6. 貨物自動車運送事業 7. 貨物利用運送事業 8. 海運代理店業 9. ETC
従業員数	272名
本社所在地	〒801-0852 福岡県北九州市門司区港町9番11号
電話番号	093-331-2101
関連会社等	九州産業運輸株式会社、アジアパシフィックマリン株式会社、捷尼克国際物流(大連)有限公司等
ホームページ	https://www.geneq.co.jp/

会社概要

当社は、門司港にて日本郵船(株)の荷物取扱人に指定された(株)村本組を起源とし、1949年に北九州運輸(株)を設立、2002年「(株)ジェネック」に社名変更し、2019年には創立70周年を迎えました。「物の流れ」を通じて社員とその家族、お取引先様、株主様全てのステークホルダーの皆様が「笑顔」と「感動」を共有できるようさらなる努力を続けてまいります。



代表取締役社長 伊東 純一

NASA & JAXA共同開発の降水観測衛星の輸送
(NASA(ワシントンD.C.)から種子島宇宙センターまで)

会社紹介

農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）は、1893年に設立された農商務省農事試験場が起源です。2001年に独立行政法人として発足し、2016年に現在の農研機構となりました。北海道から九州・沖縄にわたって拠点を設置し、九州沖縄地域においては、熊本県合志市に九州沖縄農業研究センター本所を配置して、幅広い分野で研究開発を推進しています。

現在、農業・食品産業を取り巻く状況は大きく変化しています。新型コロナウイルスのパンデミックにより、食料安全保障の重要性が再認識されました。また、担い手不足、地域社会の衰退、自然災害の頻発、地球温暖化の進行等への対応も急務です。一方、世界では大幅な人口増加にともなって食料市場が拡大すると予測されており、今まさに「農産物・食品の輸出を拡大するビジネスチャンス」を迎えています。

そこで、農研機構は、①食料自給率向上と食料安全保障②農産物・食品の産業競争力強化と輸出拡大③生産性向上と環境保全の両立に貢献することを目標として掲げました。また、この目標達成に向けた重点プロジェクトとして、2019年に、九経連をはじめとした産業界、農業界、行政、公設試、大学等の皆様とともに、「九州沖縄経済圏スマートフードチェーンプロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトでは、農業・食品産業の競争力強化、農産物・食品の輸出拡大、地方創生を目指した活動を推進し、これまで、農研機構育成品種のイチゴ「恋みのり」の生産拡大やサツマイモの冬期輸送中の腐敗率低減等の地域課題の早期解決に取り組みました。

今後も九州沖縄経済圏スマートフードチェーンプロジェクトを核として、九経連の皆様と連携し、九州沖縄経済圏における農業・食品産業の競争力強化、輸出の拡大、ひいては地方創生に貢献してまいります。

会社名	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（通称：農研機構）
創業	2001年4月1日（1893年 農商務省農事試験場として発足）
代表者	理事長 久間 和生
事業内容	作物・家畜生産、食品加工、バイオテクノロジー、環境保全、防災・減災等の幅広い分野での研究開発
従業員数	3,329名（うち研究職員1,813名）[2021年4月]
所在地	（本部）〒305-8517 茨城県つくば市観音台3丁目1番1号 TEL：029-838-8998 （九州沖縄農業研究センター 本所） 〒861-1192 熊本県合志市須屋2421 TEL：096-242-1150
ホームページ	https://www.naro.go.jp/index.html

会社概要

農研機構は九経連加盟会員で初めて、研究機関として2019年に入会し、九州沖縄経済圏スマートフードチェーンプロジェクトを推進しています。九州地方では九州沖縄農業研究センターが各県、農業界、産業界と連携して現場課題の解決に取り組んでいます。農研機構は、九経連の一員として、会員の方々との連携をさらに深め、研究成果の実用化による成功事例をつくり、農業・食品産業の競争力強化と輸出拡大に貢献します。



理事長 久間 和生

【第3回九州沖縄経済圏スマートフードチェーン事業化戦略会議の開催案内】

開催日時：2021年9月28日（火）

13：00～16：30（Web配信）

※詳細案内を下記Webページに掲載しています

https://www.naro.go.jp/q_sfc/index.html

会社紹介

おかげさまで、当社は2021(令和3)年2月3日、創業50周年を迎えることができました。創業者は大手製鉄会社に技能系社員として勤務後に独立し、職人を率いて全国の産業機械・工場建設等の現場で溶接業務を請け負う事業を立ち上げました。この経験は、その後の自動車部品・電機電子部品等の分野へ進出した「新たな工場構内請負」の着想のヒントにもなり、労働者派遣・職業紹介とともに日本のものづくりに欠くことができない人材サービスの誕生に大きく役立ちました。

私どもは創業理念「人を育て 人を活かす」を掲げ、自社で工場を持たない業態であっても、知識とスキルの両方を兼ね備えた人材の育成を図るため、全国に8カ所の教育訓練施設を開設し、座学教育・実践訓練を主眼にスタッフの能力開発を行っています。

九州・山口地区の施設としては、「日総テクニカルセンター九州」(福岡県豊前市今市)を2017(平成29)年7月にオープンし、自動車製造業組立技能訓練・半導体製造装置技術訓練・危険体感訓練(安全衛生関連)等を実施しています。特に多くの取引がある九州エリアの自動車関連メーカー(派遣先企業)のスタッフに対して、専門的な育成ルールを運用して高度なスキル習得を実施しています。

また、スタッフの働き方にも多くの選択肢(キャリアパス)があります。単一業務の熟練者になることはもちろん、業種の転換(例:自動車業界から電子デバイス業界への異動)、職種の転換(例:技能オペレーターからエンジニアへの転換)など、新たな技術革新の時代に応えるように、本人の適性・希望を踏まえたキャリア形成を構築しています。

会社名	日総工産株式会社
創業	1971年2月3日
代表者	代表取締役社長執行役員兼CEO 清水 竜一
事業内容	製造系人材サービス (労働者派遣、請負、職業紹介等)
従業員数	1,208名
本社所在地	〒222-0033 神奈川県横浜市 港北区新横浜1丁目4番1号
電話番号	045-476-4121
関連会社等	日総ブレイン株式会社 日総ニフティ株式会社
ホームページ	https://www.nisso.co.jp/

会社概要

私たち日総工産は「人を育て 人を活かす」という人材活用のあり方を一筋に追求し、日本の製造業を支えるために、製造に関する労働者派遣、一括請負、職業紹介を行っております。当社採用システム、明確な活用戦略に沿っての育成、そして個人の熱意と能力を段階的に評価し、製造現場に適正配置を行いながら、「高度な人的戦略で製造業とともに進化する」という信念と情熱でお客様の目標達成のためのご提案をまいります。



代表取締役社長執行役員兼CEO
清水 竜一



日総テクニカルセンター九州(福岡県豊前市今市)

沖縄観光通信

～ミス沖縄がおススメする沖縄観光情報～

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー (OCVB)



ミス沖縄コバルトブルー
山里ひかる

皆さま、はいたい！ミス沖縄コバルトブルーの山里ひかるです。
暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしですか？
今月は、沖縄本島北部本部町にある「沖縄美ら海水族館」をご紹介します。
日々、YouTubeやFacebook、Instagramを通して、沖縄の魅力をお届けしております。
ぜひチャンネル登録&いいねをお願いします！

■「ミス沖縄公式YouTubeチャンネル」はこちら <https://bit.ly/2Fa1tIW>



新型コロナウイルス感染予防・拡散防止に取り組んでいます！

～沖縄美ら海水族館～

(沖縄県国頭郡本部町字石川424番地・国営沖縄記念公園(海洋博公園)内)

沖縄の観光名所の一つといえば、沖縄美ら海水族館を浮かべる方も多いのではないのでしょうか？

沖縄美ら海水族館は、「沖縄の海との出会い」をテーマに沖縄の海の素晴らしさや大切さを体験、体感できる水族館です。

大規模なサンゴの飼育展示が見られる「サンゴの海」水槽から、魚類最大のジンベエザメや、世界初の繁殖に成功したナンヨウマンタが観察できる大迫力の巨大水槽「黒潮の海」、さらに謎に包まれた沖縄の深海を再現した「深層の海」水槽へと、沖縄の海を丸ごと体感することができます。

同館では、約300m沖合から新鮮な海水を取り入れ水槽に循環させることで、自然に近い飼育環境が保たれており、季節ごとに新たな生命が誕生します。スタッフの手により、愛情をかけて24時間体制で飼育、展示されている魚たちを見ると大変癒やされます。

子どもから大人まで楽しめる「沖縄美ら海水族館」で、癒やされてみてはいかがでしょうか。



【今月のおススメ】古酒(くーず)

泡盛の大きな魅力は、年月をかけて熟成させれば素晴らしい古酒に育っていくところです。沖縄では、甕やビンに入れて熟成させることを「寝かせる」とよく表現しますが、寝かせれば寝かすほど香りも甘くなり、口に含んだときの舌触りもまろやかになります。

オンラインでも購入することができますので、ぜひ皆さまも召し上がってみてください。



ミス沖縄紹介Webページ <https://www.ocvb.or.jp/activities/missOkinawa> も併せてご覧ください。



皆さまへ沖縄の魅力をお届けいたします。





九州観光推進機構 ニュース

リモートFAMツアーの開催(奄美・八女)

欧米豪プロモーションセンターでは、新型コロナウイルス禍の中、海外からの記者の招請が困難なため、九州の認知度向上に有効な情報発信として、奄美(ユネスコの世界自然遺産)と八女(お茶体験)で米・英・豪・在日の有力雑誌記者や旅行会社向けにリモートFAMツアーを開催しました。

企画から取材・運営まで全て機構スタッフ自身で行う観光施設訪問型のライブ中継で現地のリアルな情報を届けることができ、今年5月に開催した高千穂、屋久島の開催に続き、大変盛況なFAMとなりました。本取り組みが今後のメディア記事掲載等につながるよう、引き続き働き掛けを行ってまいります。

<奄美>



開放感のある部屋から海を望める伝泊
The Beachfront
MIJORA



タテ・ヨコの絁糸を合わせて織り上げていく大島紬



マングローブの大自然に囲まれて楽しむカヌー体験

<八女>



お茶セットを事前にお届けしライブで行ったお茶体験



お茶の手ほどきをする大石茶園のフランス人茶師ピエリックさん



傾斜の丘陵地に広がる大茶園

九州観光ポータルサイト「九州旅ネット」で旅行者に人気のモデルコースをご紹介します！

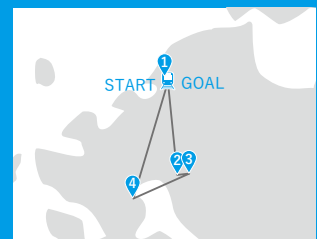
③ 勝負運、恋愛運、金運を手に入れる！福岡～佐賀★開運ドライブ

このコースのエリア
福岡県 佐賀県

日数
1日

おすすめシーズン
春 夏 秋 冬

一人旅



パワー絶大な3社をめぐる、勝負運、恋愛運、金運を手に入れる欲ばりドライブ旅。福岡市内から佐賀県鹿島市まで1日の～んびり。途中、オシャレカフェでのランチもお楽しみ。

START 1日目 博多駅

▼ 車で10分 ▼

① 日本三大八幡「宮崎宮」で“勝てる女”になる！

大分の宇佐神宮と京都の石清水八幡宮に並ぶ「日本三大八幡宮」の一つ。勝負の神様として親しまれ、福岡ソフトバンクホークスやアビスパ福岡などプロスポーツチームが必勝祈願に毎年訪れる。国の重要文化財に指定される拝殿から心穏やかに必勝祈願したら、境内のパワースポットでさらなる開運を目指そう。なれば運が湧くといわれる「湧出石」、金銭をてぼに入れ御神水で洗い清めて福を授かる「銭洗御神水」はぜひ。

◇宮崎宮



▼ 車で1時間 ▼

② 日本でココだけ！恋愛の神様がすまう「恋木神社」へ

「水田天満宮」の境内にある「恋木神社」は、恋命(コイノミコト)という恋愛の神様を日本で唯一奉る神社。ハートの陶板が埋め込まれた参道を通り、ハートの灯籠を横目に、巨大なハートを掲げる鳥居をくぐり現れる神殿は、なんとフォトジェニックなピンク色で、ハートマークもあちこちに！おみくじもハートのカタチに結ぶのが恋木神社流。結び方は掲示板で紹介されている。ちなみに良縁成就祭が行われる月と前月の2・3・10・11月はおみくじがピンク色♡

◇恋木神社(水田天満宮)



▼ 車で18分 ▼

③ アートな町家カフェ「MITOTE」で絶品カレーランチ

風情ある八女福島の町並みに2017年7月オープン。聞けば、ご主人はテレビコマーシャルのセットを手がける美術デザイナーとしてバリバリ活躍されていたという方。なるほど、納得。築100年超えの町家を改装した和の空間に、存在感を放つインテリアやオブジェなどを配した店内は、個性あふれるオシャレ空間。そんな“個性”はメニューにも。ご主人が作るカレーは、おなじみの名を冠せど、一般的なそれらとは一線を画すもの。ほうれん草とチーズのインドカレー「サグパニール」も、確かにスパイス香るカレーだけれど、濃密なスープのようにも感じられる。なにはともあれ、口にスプーンを運ぶ手が止まらないおいしさ！

◇COFFEE AND BAKE MITOTE (ミトーテ)



▼ 車で1時間30分 ▼

④ 青空に映える極彩色の「祐徳稲荷神社」で商売繁盛祈願

日本三大稲荷の一つ。日光東照宮の陽明門を模した楼門も見事ながら、地上18mの山の中腹に建つ本殿も圧巻！商売繁盛や家運繁栄、交通安全、縁結びにご利益をもつ本殿へは階段を上って行くのもいいけれど、楼門の手前にある「運氣上昇エレベーター」が楽チンでおすすめ。300円かかるものの、おみくじとパワーを授けてくれる天然石付き。本殿に向かって右手から続く鳥居をくぐって約20～30分歩いて辿り着く「奥の院」参拝もお忘れなく。急な石段が続く険しい道のりではあるものの、有明海まで一望できる爽快ビューがお待ちかね。

◇祐徳稲荷神社



▼ 車で1時間40分 ▼

GOAL 博多駅

九州観光推進機構のホームページ <https://www.welcomekyushu.jp> 「九州旅ネット」も併せてご覧ください。

【本件問い合わせ先】(一社)九州観光推進機構 (TEL: 092-751-2951)

地域 動向

九州・山口

山口 Yamaguchi



山口県庁にテレワークオフィス、山口宇部空港にワーケーション総合案内施設を開設！

都会での仕事を辞めることなく地方へ移住する、「転職なき移住」を実現する地方創生テレワークのモデルオフィスを、山口県が全国で初めて県庁内に開設。名称をやまぐち創生テレワークオフィス「YY！SQUARE（ワイワイ！スクエア）」とし、7月27日にオープンした。

「転職なき移住」に加え、県外勤務者が子育てや介護などで山口県に滞在する場合の利用や、県内勤務者が「新しい働き方」を実践する場として活用することも見込む。

特徴の一つは、県外勤務者の利便性に配慮したウェブ予約システム。2カ月前からの予約が可能で（県内勤務者は2週間前）、計画的に利用できる。

仕切りのあるパーソナルデスクや防音に配慮したウェブ会議用ブース、Wi-Fiなどが全て無料で利用でき、利用者からの各種相談に随時対応するコンシェルジュ体制も整えた。

また、普段の職場とは異なる場所、例えば観光地やリゾート地などでテレワークを行う「ワーケーション」の推進拠点として、やまぐちワーケーション総合案内施設「YY！GATEWAY（ワイワイ！ゲートウェイ）」を、8月3日に山口宇部空港内に開設。

ここでは、専任のコンシェルジュがワーケーション可能な宿泊施設やコワーキングスペース等に関する総合案内や相談対応などを行い、利用者ニーズにきめ細かく対応する。また、空港到着後・出発前のリモートワークが可能なコワーキングスペースとしても利用できる。

山口県への新たな人の流れの創出・拡大を狙うこれら二つの施設をぜひご利用いただきたい。

《問い合わせ先》

やまぐち創生テレワークオフィス
TEL：083-933-4805
やまぐちワーケーション総合案内施設
TEL：0836-33-6678



YY!GATEWAY

福岡 Fukuoka



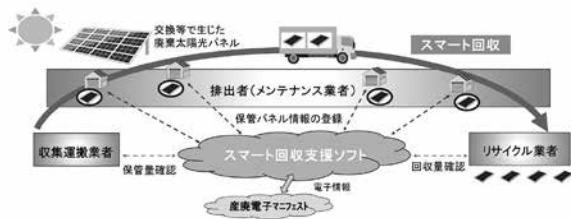
全国初！「廃棄太陽光パネルスマート回収システム」を開発！

太陽光発電の急速な普及に伴い、今後、廃棄太陽光パネルの排出量の急増が見込まれる中、廃棄パネルをリサイクルにつなげていく仕組みづくりが不可欠である。本県には太陽光パネルの高度な処理技術を持つリサイクル業者が立地しており、効率的な回収システム

を構築すれば、リサイクルの推進が可能な環境にある。このため、今回、県と（公財）福岡県リサイクル総合研究事業化センターは、「廃棄太陽光パネルスマート回収システム」を全国に先駆けて開発した。

今回開発したシステムでは、排出者や収集運搬業者、リサイクル業者の間で廃棄パネルの量や保管場所などの情報をクラウドで共有でき、点在する廃棄パネルを効率的（スマート）に回収、リサイクルできるようになる。

県内外を問わず、多くの関係者に本システムをご利用いただきたい（利用には福岡県太陽光発電（PV）保守・リサイクル推進協議会への加入が必要）。



スマート回収システムの概要

《問い合わせ先》

福岡県循環型社会推進課 TEL：092-643-3381
協議会ホームページ <https://pv-marps.jp>



佐賀 Saga



九州佐賀国際空港がますます便利にリニューアル！

佐賀の空の玄関口「九州佐賀国際空港」が、航空機を利用するとき以外でも楽しめる空港にリニューアルしている。

今年4月には、ターミナルビル2階にスーベニアショップ「sagair（サガエア）」がオープン。図書館をイメージした空間で、伝統的地場産品の「諸富家具」の棚に、お菓子や地酒、伝統工芸品、陶磁器などさまざまな県産品がおよそ900アイテム並ぶ。オリジナル商品として、バルーンの球皮を使ったバッグや「すっぴん、すなお、そぼく」をコンセプトに新たに立ち上げられたブランド「SAGASU（サガス）」の商品を販売する。

他にも、有料ラウンジがプレミアムラウンジ「さかのがら」としてリニューアル。有明海一面に広がる海苔畑や佐賀のクリークといった美しい風景などがデザインされた佐賀の魅力あふれる空間で、快適なひとときを過ごすことができる。また、国内線搭乗待合室が拡張され、コンセント・USBポートを100口以上設置している。

無料駐車場も約1,600台から約2,200台に拡張され、自家用車でお越しのお客様にもゆっくと空港を楽しんでいただける。

飲食エリアもリニューアル中で、ますます便利で魅力的な空間となっていく九州佐賀国際空港。多くの方々に足を運んでいただきたい。

《問い合わせ先》

佐賀県空港課 TEL：0952-25-7104
佐賀ターミナルビル株式会社 TEL：0952-46-0100





第40回「国民文化祭」の開催が内定

2025年度「国民文化祭」の本県での開催が内定した。国民文化祭は、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育などの分野と連携し、地域の文化資源などの特色を生かした国内最大級の文化の祭典で、本県では初開催。天皇皇后両陛下が地方を訪問される「四大行幸啓」の1つとなっている。

本県では、今年秋にMICE施設「出島メッセ長崎」、来年秋に西九州新幹線が開業するほか、2024年度にはサッカースタジアムや大型アリーナなどからなる「長崎スタジアムシティ」が開業予定など、「まち」の佇まいが大きく変わろうとしている。

また、国民文化祭が開催予定の2025年は、被爆80年、長崎県美術館・長崎歴史文化博物館の開館20周年、長崎空港開港50周年、中国駐長崎総領事館開設40周年という本県の文化振興、平和推進、国際交流などにおいて大きな節目の年でもある。

国民文化祭の開催は、地域の特色ある文化芸術活動をさらに活発化し、本県ならではの文化芸術の魅力を全国に向けて発信することで、地域の魅力の再発見による観光振興やまちづくりの大きな契機になると考えており、国内外とのさらなる交流拡大につなげていきたい。

《問い合わせ先》

長崎県文化振興課
TEL : 095-895-2764



都倉文化庁長官(左)から中村知事に内定書が手渡された

保育施設、地域交流施設などに生まれ変わっており、概ね全ての「みんなの家」が有効に活用される予定である。新たなコミュニティ形成の場や地域づくりの拠点として地域に根付いていくことが期待される。



《問い合わせ先》

熊本県建築課

新阿蘇大橋の展望所に移築された「みんなの家」外壁材に仮設住宅に使用された木材を再利用している

TEL : 096-333-2537 FAX : 096-384-9820

※くまもとアートポリス事業

1988(昭和63)年に始まり、これまで4代の知事にわたり継続してきた建築文化事業。熊本県の自然や歴史、風土を生かしながら、後世に残る文化的資産としての優れた建造物を数多く生み出してきた。



大分への移住とIT企業への転職・起業をサポートします！

大分県へ移住して県内IT企業への就職や起業を目指している方々向けのIT技術スクールがこのたび開講された。コロナ禍においても需要の高まりを見せるIT業界への就職・起業支援を行うことで、県外からの移住促進につなげていくことが狙い。

受講期間は約6～8カ月を予定しており、オンラインでの授業・インターン等を通して、基礎的なプログラミング言語の習得から実際に案件を請け負うためのノウハウまでを学ぶ。講師がマンツーマンで指導するなどフォローアップ体制を整えており、プログラミング未経験者やIT技術について知識が無い方も安心して受講することができる。

受講料は無料(教本・ソフト代等は受講者負担)になるほか、期間中は最大6回まで住所地から大分県へのスクーリングに係る費用(交通費・宿泊費)を県が支援する。また、企業への就職やフリーランス起業への支援とともに、大分での生活をスムーズに開始できるよう、先輩移住者による移住希望地のガイドサポートも行う。

募集期間は9月30日(木)まで。詳細は「おおいた暮らしポータルサイト」にて公開している。

ぜひこの機会に、多くの方々に受講していただき、大分県で新しい仕事と生活にチャレンジしていただきたい。



《問い合わせ先》

大分県おおいた創生推進課
TEL : 097-506-2038



仮設住宅に建設した「みんなの家」の利活用を進めています！

熊本県では、くまもとアートポリス事業*の一環として、東日本大震災や熊本広域大水害において被災された方が集い、新しい生活を回復するための憩いの場として「みんなの家」を整備するプロジェクトに取り組んできた。この経験を活かし、熊本地震の際には、仮設住宅団地内に84棟の「みんなの家」を整備した。

地震からの生活再建が進み、仮設住宅団地の閉鎖に伴って、「みんなの家」は当初の役割を終えるが、被災された方の憩いの場として大切に活用されてきた「みんなの家」を後世に残すとともに、持続可能な社会の実現に向けた取り組みとして、移築等による活用を進めている。

現在、多くの「みんなの家」が地区の公民館、学童



「ひなたMBA」開講中！

「ひなたMBA（みやぎビジネスアカデミー）」は、県と経済団体や金融機関が連携して、宮崎の将来を担い地域経済をけん引する産業人財の育成を目指すプログラムである。

7月に開講したひなたMBAは、従来のプログラム体系を大幅に見直し、それぞれの階層に応じた学びと実践を通じて、「既存の価値を高める力」と「新たな価値を創出する力」を引き出し、新時代をリードする人材育成を目指す。

具体的には、2019年度に県と連携協定を締結している株式会社グロービスと県内企業のニーズや弱みなどを聞き取った上で開発した独自プログラムを、リーダー層、中堅（管理者）層、経営者・幹部層の各階層に広げ、コース化したプログラムを実施する。

また、「グロービス連携プログラム」など一部プログラムにコーディネーターを配置し、受講者および企業に対して、研修での学びを実践につなげるためのフォローアップを行うほか、受講者同士のネットワーク形成を促すなど、高みを目指す仲間づくりを支援する。

プログラムは無料のものと同有料のものがあり、リーダー層から経営者層まで幅広いプログラムをそろえていることから、受講者は役職や目的に応じて受講できる。

県と実績ある人材育成機関が連携して実施する「ひなたMBA」。県では、今後も業種にかかわらず県内企業などに勤務するまたは就職する意思を持つ方、起業にチャレンジする多くの方々に受講してもらい、宮崎の未来を照らすビジネスリーダーの育成に取り組むこととしている。



《問い合わせ先》

宮崎県産業政策課 TEL：0985-26-7967

<https://www.hinatamba.jp/>



「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録！

2021年7月26日に開催されたユネスコ第44回世界遺産委員会において、鹿児島県の奄美大島、徳之島が、沖縄県の沖縄島北部及び西表島とともに世界自然遺産に登録された。日本では、2011年の小笠原諸島に続く5番目の世界自然遺産であり、鹿児島県は、屋久島と合わせて2つの世界自然遺産を持つ全国唯一の県となった。

今回の登録は、奄美大島、徳之島を含む4島がアマミノクロウサギなど国際的にも希少な固有種に代表される生物多様性を保全する上で重要な地域であること

が、改めて評価されたものである。

鹿児島県では、奄美群島持続的観光マスタープランを策定し、奄美の自然や環境文化を保全・継承しながら、地域の持続的な発展を目指すこととしている。また、奄美の自然を気軽に楽しめる奄美自然観察の森のリニューアルや、奄美群島ならではの自然や文化に触れ合える「世界自然遺産 奄美トレイル」の活用を進めている。

引き続き、国、沖縄県、地元市町村、関係団体及び地域住民の方々と連携を図りながら、奄美の世界自然遺産としての価値の維持、自然環境の保全と利用の両立、地域の気運醸成などの必要な取り組みを継続的に推進し、世界中の人々にとっても価値のある奄美のすばらしい自然を次の世代に継承してまいりたい。



《問い合わせ先》

鹿児島県奄美世界自然遺産登録推進室 アマミノクロウサギ

TEL：099-286-2759

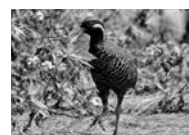


奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島は日本列島の南端部に約1,200kmにわたって弧状に点在する琉球列島の一部であり、トカラ列島以南の琉球諸島（中琉球、南琉球）は、大陸との関係で独特の地史を有している。それぞれの地域が固有性の高い生態系を形成し、生物多様性が極めて高く、多くの固有種の生息・生育地となっている。代表的なものとしてヤンバルクイナ、リュウキュウヤマガメ、イリオモテヤマネコ、アマミノクロウサギなどが挙げられる。

日本国内では既に、屋久島、白神山地、知床、小笠原諸島が世界自然遺産に登録されており、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島が去る2021年5月、諮問機関である国際自然保護連合（IUCN）より世界自然遺産登録の勧告がされ、7月の世界遺産委員会です正式決定されたため国内5箇所目となった。

世界自然遺産登録されたことで、知名度が上がり、環境保全意識の向上や観光客増加による地域振興が期待される一方、オーバーユース、ロードキル、密猟・盗採の増加などが懸念されるため、これらの対応策を強化し、貴重な自然遺産を次世代へ継承しなければならないと考える。



ヤンバルクイナ



イリオモテヤマネコ

《問い合わせ先》

沖縄県自然保護課 TEL：098-866-2243

奄美の mangrove でカヌー体験しませんか？ (鹿児島県)

鹿児島県の奄美大島は、国の特別天然記念物のアマミノクロウサギや、国の天然記念物で県鳥でもあるルリカケス等が生息する貴重な動植物の宝庫です。今年7月、徳之島、沖縄島北部及び西表島とともに世界自然遺産に登録されました。

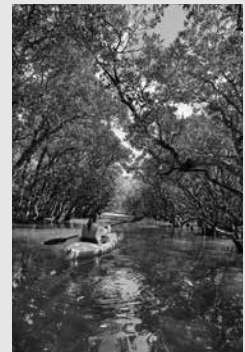
奄美市住用町の mangrove 原生林^{*}は、沖縄県の西表島に続いて国内で2番目に広い71ヘクタール以上の面積を有しており、国立公園特別保護地区にも指定されています。

この mangrove 原生林は、潮の影響によりプランクトン、カニ、エビ、貝類などが豊富なため、それらを餌とする魚や鳥、哺乳類も数多く集まります。

また、同町にある「黒潮の森 mangrove パーク」では、満潮時に、頭上ギリギリまで迫る mangrove のトンネルをカヌーで進むツーリングが人気です。カヌーの操作に関する講習の後、ガイドの案内を受けながら進むので、初心者をはじめ、親子で安心して楽しめます。干潮時は干潟に上陸して干潮時にしか観察することのできない生物の観察ができるなど、訪れる時間によって遊び方が変わるのも魅力です。

皆さんもぜひ、満潮時と干潮時それぞれ異なる姿の「mangrove」を見ながら、カヌーツーリングを楽しんでみませんか。

※世界自然遺産の登録区域外です。



《問い合わせ先》

(株)mangrove 公社 TEL : 0997-56-3355

スケジュール (9月)

日(曜)	会合名等
14日(火)	行財政委員会第2回自立型広域経済圏モデル検討WG(福岡市・九経連)※Web併催
15日(水)	農林水産委員会林業部会第1回調査・研究WG(福岡市・九経連)※Web併催
28日(火)	産業振興・デジタル推進委員会第1回デジタル推進部会(Web開催)
29日(水)	第167回理事会、理事・審議員合同会議(福岡市・西鉄グランドホテル)
30日(木)	産業振興・デジタル推進委員会第1回産業振興部会・先進工場見学会(北九州市・株安川電機)

新入会員企業(7月)

(株)日本商業不動産保証

代表取締役社長	豊岡 順也	東京都港区西新橋1丁目7-2	TEL : 03-6206-1669
福岡営業所長	巻幡 省吾	福岡市中央区天神2丁目3-36	TEL : 092-510-1370 従業員数 : 18名
事業内容 : 信用保証業務、オフィス仲介業務、賃貸商業スペースの入居企業募集に関する情報の収集および提供等			

(株)ユー・エス・イー

代表取締役社長	吉弘 三男	東京都渋谷区恵比寿4丁目22-10	TEL : 03-5449-8536
九州支社長	田中 和幸	福岡市博多区博多駅前4丁目14-1	TEL : 092-409-6301 従業員数 : 741名
事業内容 : ソフトウェア開発・保守・運用等			

(株)ユーザベース

代表取締役Co-CEO	稲垣 裕介	東京都港区六本木7丁目7-7	TEL : 03-4533-1940 従業員数 : 611名
事業内容 : SPEEDA (経済情報サービス)・NewsPicks (ソーシャル経済メディア) の提供、B2B事業、ベンチャーキャピタル事業他			

◆九経連ホームページ <https://www.kyukeiren.or.jp>

◆九経連メールアドレス info@kyukeiren.or.jp 月報・ホームページをご覧になったご感想やご意見をお寄せください。